様式7（市教委報告用）

5三鷹高山小発第176号
令和6年3月8日

三鷹市教育委員会　様

校長　吉村　達之
（公印省略）

# 令和5年度　三鷹の森学園　三鷹市立高山小学校　　学園・学校評価報告書

このことについて、下記のとおり報告いたします。

記

## 学園評価 ※学園内で統一記述

***今年度明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること***

●「豊かな心」について、CS委員からも高い期待が寄せられており、重点に位置付けていく。
●学園研究については、3校の共通理解に立った研究の流れを生かし、児童・生徒の資質・能力の向上に結び付く効果的な研究をさらに進めていく。
●学園・学校評価については、実際の学校教育の質的向上にさらにつながっていくよう、評価項目や運用方法を工夫し、評価のための評価ではなく、よりよい学園・学校づくりに具体的につなげていく。

***来年度の重点課題を解決するための改善方策***

●「豊かな心」の育成を教育課程編成上の重点に位置付け、児童・生徒の交流活動や各校の特別活動等の充実の中で育成する。
●学習指導要領のより深い実践と検証を進めていく時期であることから、「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善を一層進める。
●CS委員をはじめとした地域や保護者の皆様に、学校をさらに良く見ていただく。より適切な評価項目となるよう項目や評価規準の改善を図る。

## 学校評価 ※学校ごとに記述

***今年度明らかになった課題　※「第2回学校関係者評価」を経て記述***

***○ 学習用タブレット端末や教室に設置された短焦点プロジェクターの活用について、個別最適化や探求にどのように生かしていくかを日常の授業を通して試行しながら、さらに研究を深めていく必要がある。***
***○ 数年にわたる新型コロナウイルスの流行の影響から、児童の体力・運動能力の向上が十分にできていない。***
***○ 本校でも推進している、学校における働き方改革について、これまで以上に具体的な取組を工夫し、実践することで、教職員の職場環境の改善を図っていく必要がある。***

***来年度の改善方策　※「第2回学校関係者評価」を経て記述***

***○ 教員のICTに関する目主研修組織である「リンゴ部」などを引き続き活用しながら、学習用タブレット端末と短焦点プロジェクターの活用についてスキルを共有して、授業載録での活用を必須にしたり、校内研究に必ず活用を盛り込んだりしながら、日常の授業等でも一層の活用を図る。***
***○ 体育のカリキュラムを工夫し、休み時間における取組や家庭での運動習慣の定着を図る取組を一層強化している。***
***○ 教職員が本来の職務に集中できるよう、学校や教職員が担当すべき職務内容を仕分けし、校内の業務内容の見直しや削減、発展的解消を図る。また、保護者や地域にも発信し、これまで当たり前のように学校や教職員が担ってきた本来の業務ではないものを、当事者である家庭や関係機関等に振り分けて対応をお願いしていく。***

| 取組項目 | 今年度の重点目標 | 成果 | 課題と改善方策 |
|---|---|---|---|
| コミュニティ・スクールの運営 | スクール・コミュニティの創造に向けて、地域・学校協働活動の充実を図る。 | ○3校共通で取り組んだ「地域未来塾」について、地域人財の活用状況に着目し、地域・学校の協働活動の指標とした。人財活用については、今年は年度途中で3校共にボランティアの増員が実現し、体制の拡充が図れた。<br>○参加児童・生徒からも、地域未来塾に参加したことが自分にとってプラスになっているとの肯定的な回答が得られていることから、一定の効果が認められる。また、年度中に、第2回目の募集を行ったところ、2校で参加児童・生徒の増加があり、活動の充実につながったと考えられる。 | ●活動の適正化とそのための人材確保。<br>活動の内容が児童・生徒の豊かな心の育成にとって適正であるかの確認と、活動のための人材をどう確保するか。<br>●更なる活動の充実。<br>1年間の長いスパンの中でだけでなく、活動をしながら短いスパンでの改善も行いながら、活動を充実する取り組みが重要。<br>●担当やボランティア任せにするのではなく、基本方針や運営方針を共通理解し、定期的に課題を共有しながら進める。<br>●今年、試行的に行った第2回募集が効果的であったことからわかるように、活動につい継続的にてPRしたり、年度途中の募集を行ったりし、活動についての共通理解の深化を図りつつ、さらなる参加の拡大を図る。 |
| 小・中一貫教育校としての教育活動 | 地域の教育資源を活用したカリキュラム・マネジメントを推進する。 | ○『主体的に学習に取り組む態度』の指導と評価の在り方～『カリキュラム・マネジメント・ガイド』を活用した授業実践」の研究テーマの下、授業研究に取り組んだ。「教科・領域間のつながり」、「小・中学校のつながり」、「地域とのつながり」の3つの観点に沿った研究授業を6つ行った。協議も活発に行われ、学んだことをそれぞれが活かすことができた。 | ○全教育活動を通じて、よりカリキュラム・マネジメントを意識していくこと。<br>○地域の教育資源を更に活用していく。<br>○「カリキュラム・マネジメント・ガイド」を生かした実践を重ねるとともに、「粘り強さ」、「学習の調整」という点から、自己評価を工夫するなど、更なる授業改善を学園全体で進めていく。<br>○SC推進員を中心にコミュニティスクール委員会、地域学校協働本部、3校PTAや地域団体との連携を図り、教育資源の情報を収集し活用していく。 |
| 〈知〉確かな学力 | 個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた取り組みを推進する。 | ○『主体的に取り組む態度』の指導と評価の在り方」をテーマに、学園内で研究授業などを通して授業改善の視点に立った取り組みを進めることができた。<br>○学習活動におけるタブレットの活用を、さらに充実させることができた。8月からの新システムへの移行に伴いタブレット活用の幅が広がったことも効果的になっている。 | ●授業研究については、今年度の成果を学園全体で共有・確認をし次年度にさらに発展させていく。<br>●タブレットの活用については、使い方に課題が見られる児童・生徒もいるため、活用の指導の充実を図る。<br>●今年度の成果をもとに、学園研究授業やその後の協議会において、教員同士での話し合いも充実させ、実践を更に深化させる。<br>●GIGAスクールマイスターを中心に、学習用タブレット端末の活用事例を共有し、学習効率の向上につなげられるようにする。 |
| 〈徳〉豊かな人間性 | あらゆる教育活動を通して、他者との関わりを大切にし、協働して課題解決に取り組もうとする意欲を育む。 | ○中学校では、児童会・生徒会交流会、熟議において、個人、グループ、全体での意見交流を通し生徒が主体的に関わるデジタル・シティズンシップ教育の充実を図った。さらに、ブレ中学生体験や部活動体験を通し、小中学生の交流を深めることができた。地域の行事に昨年度以上に ボランティアとして参加することができた。<br>○小学校では、プレ中体験、部活動体験、小・小交流を通を行った。プレ中体験や部活動体験では、中学校の授業を受けたり、中学生から学校の説明を聞いたりすることができた。小・小交流では自分たちが考えたゲームを楽しんだり、互いの学校の校歌を聞き合ったりして交流を深めた。<br>また、全ての交流活動では学園歌を歌うなど、学園生としての | ●年間指導計画に基に、多様な教科において、乗り入れ教員、地域人材等、教育活動のさらなる充実を図る。<br>・SC推進員との連携を図る。<br>・学園内の情報共有、CS委員会との連携をより一層図る。 |
| 〈体〉健康・体力 | 自らの健康・体力の保持・増進に努め、望ましい生活習慣を身に付けた児童・生徒を育成する。 | ○中学校から小学校への乗り入れ授業では、中学校教員の専門性を生かした指導により、技能の習得と学習意欲の向上が促進され、体力・運動能力の向上を図ることができた。<br>○体育の授業だけでなく、休み時間等も活用した縄跳びや持久走、体力づくり等、運動に親しむ活動を実施し、体力・運動能力の向上を図ることができた。 | ①新体力テストの結果から、多くの学年において全国の平均値はド下回っている。<br>②就寝時間が遅いなど、生活リズムが乱れ、規則正しい生活習慣の定着ができていない児童・生徒が見られる。<br>①体育の授業改善を図るとともに、運動に親しむ活動等、年間を通した運動の日常への取組を計画的に実施していく。<br>②様々な機会を捉えて、規則正しい生活習慣の大切さについて児童・生徒の意識を高めるとともに、学校だよりや保護者会等を活用して、保護者への啓蒙を図っていく。 |
| 特色ある教育活動 | 地域人財の活躍、学校周辺環境を活用した人間力・社会力の育成 | ○学校ホームページや学校だよりを活用し、教育活動の情報を適切に発信することができた。<br>○ SC推進員及びCS委員会地域サポート部との連携により、地域の教育資源を活用した授業や学園サポーターを活かした授業を行うことができた。地域とのつながりを活用することで、「知的資源」としての広がりへとつながった。 | ●校支援での配信等も行っているが、校支援の保護者の開封率が上がらない。<br>● 地域人財を授業に取り入れることは、学年により差が出ることがある。<br>●学校だよりや保護者会等を利用し、校支援の開封率が上げるように呼びかけていく。<br>● 地域人財を活用した授業を更に取り入れられるように、学校とSC推進員及びCS委員会地域サポート部との連携を図り、地域の教育資源の掘り起こしを行っていく。 |
| 教育の質の向上を目指した学校の働き方改革 | 教職員の働き方改革と学園の教育活動の充実・向上の両立を図る。 | ○　校務支援員やスクールサポートスタッフなどの人的配置を活用するなどして、校務処理の一層の効率化を図ることができ、業務の軽減が毎年進捗している状況である。オンラインによる会議も常態化しており、負担軽減につながっている。<br>○　働き方改革に対する教職員の意識も年々向上し、退勤時刻の早期化や残業時間の減少などにも現れている。余裕ができた時間を授業準備や児童・生徒の対応に割くことが可能となっている。<br>○　昨年度に引き続き、校務分掌の見直しや業務改善を行うことで、業務量は減少傾向にある。学校全体で、働き方改革を進める機運も高まっており、教職員から様々なアイデアも出るようになってきた。教職員が本来の業務に集中して取り組めるような環境が徐々に整ってきていると言える。 | ①　来年度から新たに配置される校務支援員などの人的資源をより効果的に活用して、更なる効率化を図ることが課題である。<br>②　教職員の中には、働き方改革の意義を理解はしているものの、行動が伴わず、依然として退勤時刻を大幅に過ぎても仕事に従事し、結果、残業時間を増やしてしまっている例も見られることが課題である。<br>①業務の軽減が一層進むように、意図的・計画的に進めていく必要がある。<br>②このような一部の教員に対して、個別に相談に乗り、指導するなどして、改革に対する指揮を醸成していく必要がある。<br>③このようなケースには、毅然とした態度で応対し、するべきことはしっかり行い、できないこと、業務範囲外のことははっきり断る姿勢を見せていく必要がある。 |

| 取組項目 | 学校の経営目標（中期目標） | 今年度の重点目標（単年度目標） | 今年度の重点目標を達成するための具体的方策 | 第1回評価 取組 | 第1回評価 成果 | 第2回評価 取組 | 第2回評価 成果 | 自己評価（第2回） | 学校関係者評価（第2回） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 人間力・社会力の育成 | 学園目標の実現に向けた取り組みの一つとして「未来塾」を位置付け、その取り組みの充実を図る。 | 「自ら学ぶ力」「ねばり強く取り組む力」の育成のために大学生の指導員等による「高山小未来塾」をSC推進員との協働により5～6月中にスタートし、個別最適化された学びの場の一つとして活用する。 | 「未来塾」を学習支援の場としても活用するために、定期募集だけでなく、教育相談や面談等を通じて入塾できる仕組みをさらに整備する。 | 4 | 4 | 4 | 4 | 評価基準に照らして、いずれも4とした。指導に当たるボランティアも増え、児童が学習にポジティブに向かう姿勢が一層醸成されてきている。地域未来塾の重要性は今後も変わらない。予算面、制度面を含めて拡充を図れるように関係機関に働きかけも行う。 | 適正かつ妥当である（18/18　100%）<br>在籍児童数に見合う予算等がつき、さらに拡大できるとよい。<br>予算面や制度面の拡充を図り、さらに多くの児童に地域未来塾のような学習機会を提供することが重要である。 |
| 学園・学校運営 | 「カリキュラム・マネジメント・ガイド」に基づき、小中学校間等のつながりを意識し、地域の教育資源を活用した教科等横断的な指導の実践化に取り組む。 | 「地域の教育資源の活用」「学園目標に基づく教科等横断的な授業づくり」の二つの視点から学校分科会としての実践研究に取り組む。 | 研究部が中心となって1学期中に授業者を決定し、2学期に校内での共同授業検討を行ったうえで研究授業を実施して学園で共有する。 | 4 | 4 | 4 | 4 | 評価基準に照らして、いずれも4とした。9月から10月にかけて、3校の教員がお互いの研究授業を見せ合い、協議を行った。研究のプロセスを通して培った成果を踏まえて、来年度も3校の教員が協働して小・中9年間の子どもの より良い育成について研究を深めていく。 | 適正かつ妥当である（18/18　100%）<br>小・中の教員が気付いたこと、それを今後どのように授業に生かしていくかをわかりやすく保護者に発信されることを願います。<br>計画どおりに研究授業を実施し成果を共有している点が、高山小の教育活動の成功を示している。 |
| 小・中一貫教育校としての教育活動 | 教科書のデジタル化を見通しながら、タブレットやネットワーク環境の活用を通して個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて取り組む。 | 研究情報部を中心に、学園研究とリンクさせながら、校内研究において粘り強く取り組み児童の育成に関わる研究を国語科を中心に進め、タブレットの活用を実践しながら個別最適な学びや協働的な学びの実現に向けた取組を行う。 | 本校の児童の実態に合った校内研究となるよう、7月に文部科学省から講師として主任視学官を招聘して研究の方向性を学び、タブレットの活用も踏まえながら、個別最適な学び、協働的な学びを取り入れた授業改善を進める。 | 4 | 4 | 4 | 4 | 評価基準に照らして、いずれも4とした。7月にご指導いただいた文部科学省主任視学官の宮崎活志先生のお話を受けて、2学期、研究授業を3回行い、協議を通して研究を深めることができた。現在、今年度の研究の成果と課題を研究紀要にまとめる作業を行っている。 | 適正かつ妥当である（18/18　100%）<br>国語科にフォーカスした個別最適な学びや協働的な学びを取り入れた授業改善は、教師の学びにとっても大切な取り組みである。<br>継続的な研究と実践の深化を通じて、児童の確かな学力の更なる向上が見込まれる。 |
| 児童・生徒の学力・健全育成 | 児童が互いを尊重し合う温かい集団を形成し、三鷹の森学園への帰属意識を高めるとともに、地域や学園の活動を通して自己有用感を育むことで、地域の一員としての自覚を培う。 | 地域における貢献活動や学校間の交流活動など、児童の活動の機会を作る。<br>いじめのない学校づくりのために、「いじめ見逃しゼロ」を合言葉に、いじめに対する意識を高め、未然防止や早期発見に重点を置いた取り組みを行う。 | 児童・生徒会交流会、夏休み中の小学校学習ボランティア、ブレ中学生体験、部活動体験等、基本的な感染防止対策を講じつつ、効果的に実施する。 | 4 | 4 | 4 | 4 | 評価基準に照らして、いずれも4とした。1学期に実施したブレ中（小学生の中学校体験）をはじめ、小小交流など、コロナの影響でずっと中止になっていた交流事業が復活し、学園生であるという意識付けにつながった。友達との関わりや自己肯定感の醸成につながるような取組を引き続き行っていく。 | 適正かつ妥当である（17/18　94.4%）<br>豊かな人間性は保護者の関心も高い項目なので、自己肯定感を定期的に測定することなどが行えればよいと思う。自己肯定感が醸成される取り組みは、次年度もさらに充実させたい。 |
| | 身近なものとして、自らの体力や健康への関心を高めるとともに、自ら目標をもって運動に取り組み、生涯にわたって運動に親しむ態度を育む。 | 新型コロナウイルスの流行の影響で減衰してしまった体力の実態を児童に把握させ、運動の必要性を理解できるようにするとともに、体力・運動能力向上に必要な力や手立てを理解させながら体力の向上を図る。 | 新型コロナウイルスの流行の影響で減衰してしまった体力の実態を踏まえ、6年生の中学校体育科教員の乗り入れ授業や年間を通した縄跳び月間の設定など、日々の取り組みから運動の日常化を図る。 | 4 | 2 | 4 | 4 | 評価基準に照らして、いずれも4とした。体育部を中心に年間を通した行った、縄跳び月間や運動に親しむ活動が実を結び、実測値でも昨年を上回るものが多かった。引き続き運動の日常化に取り組み、健康・体力の増進につなげていく。 | 適正かつ妥当である（18/18　100%）<br>6年生の中学校体育科教員の乗り入れ授業や縄跳び月間の設定など、日常生活における運動の習慣化を目指す取り組みは、体力・運動能力の向上に有効である。健康・体力の更なる増進が期待される。全体的に、児童の健康と体力向上に向けた教育活動の成功を示している。 |
| コミュニティ・スクールの運営 | 豊かな語彙をはぐくみ、コミュニケーション能力を向上させることをねらいとして、「コミュニケーション」に重点をおいた教育活動の一層の推進を図る。 | 各教科、特に総合的な学習の時間や教科横断的な取り組み、外国語（英語）科において、地域人財や都や市、地域の施設（大学等）なども活用し、教科の特性に応じたコミュニケーション能力の向上を図る。 | 教科横断的視点で指導を工夫するとともに、外国語科のALT集中配置方式の一層の効果的運用を図り、TGG青海での5年生に加えTGG立川での6年生の英語体験学習を行う。地域人財や施設も活用しながらコミュニケーション能力の向上につながる活動を積極的に行う。 | 4 | 4 | 4 | 4 | 評価基準に照らして、いずれも4とした。英語のALT集中配置方式は、児童のコミュニケーション能力の向上につながり、12月に実施した5年の青海のTGG、6年の立川のTGGの英語体験学習が実践の場となっている。英語によるコミュニケーションに対するポジティブな姿勢が醸成されていることが、TGGの児童のアンケート調査からも見て取れる。 | 適正かつ妥当である（18/18　100%）<br>自分がよくできるようになっていることを自分自身が実感できているという話が出ていたので、それはとても良いと感じた。ALT集中配置方式とTGGでの英語体験学習は、実践的な言語習得の場として重要な役割を果たしている。 |
| 学校の働き方改革 | 業務内容や実施方法の見直し、スタッフも含めた業務分担の検討を進め、教員の時間外勤務の縮減を図ることで児童との触れ合いの時間を増やすなど、学校教育の質の維持向上を図りながら働き方改革を進める。 | 業務の無駄を省き、時間の有効活用が教員のみならず児童にも有効還元されるよう、学校が行うべき業務の範囲を明確化し周知し、業務の効率化・スリム化を図る。教員の働き方改革への意識の更なる向上を図りながら、残業時間のさらなる縮減を目指す。 | 学校が担うべき業務内容を広く周知し、業務外の依頼や相談が無くなるようにする。毎月1回経営支援会議を開き、経営主任を中心に各分掌・担当の横断的連携を図りながら、業務の効率化・スリム化を推進する。 | 4 | 4 | 4 | 4 | 評価基準に照らして、いずれも4とした。働き方改革に対する教員の意識はさらに高まっている。退勤時刻も以前に比べてかなり早まった。学校経営支援組織を活用し、毎月の定例会議で経営主任を中心に協議しており、学校運営のスリム化につながっている。 | 適正かつ妥当である（18/18　100%）<br>高山小の働き方改革は、業務の効率化とスリム化を通じて、教員の労働環境を改善し、結果的に教育の質を向上させている。退勤時刻の早期化は、教員のライフワークバランスの改善を示しており、働き方に対する教員の意識の高まりを反映している。 |